

- 1 本州等では、自分で勉強する習慣を大切にしており、土曜講習はあっても放課後講習はそれほど行われていない。自発的な学習習慣を身につけさせる必要があるのではないか。
- 2 放課後講習や小論文指導などと、何でも高校で行うのは教員の負担の大きさからいって無理があるのではないか。労力を分散させるしくみが必要なのではないか。
- 3 小論文指導は単に文章を書く訓練ではなく、主体的な考えを表現する力を育成しなければならない。私は仕事上文章を書くことが多いが、それは学生時代の読書によって支えられていると感じる。多くの生徒は将来必要とされる力が十分身につけていないのではないか。
- 4 受験テクニックしか身につけていないと、人間関係を築けなかったり、文章で表現できない人が育つ。それを防ぐには、そのようなことが生徒を通じて、保護者に伝わっていくことが大切である。
- 5 卒業生が社会のリーダーになっていくことは、保護者、教員の共通の願いである。大学入試の結果だけでなく、社会性を身につける教育が望まれる。
- 6 公立の受験校には、本州の中高一貫校ではできないような教育をやってほしい。社会の中でのし上がっていくような気概を持たせてほしい。
- 7 高校生活の中で挫折した生徒のケアも考える必要がある。人間関係の中でもまれていないと、挫折したときに歯止めなく落ち込んでしまう。
- 8 内部アンケートに見られる、多忙感を持った教員が多いのに驚いた。自分なりの達成感が得られるような目標設定や、外部への仕事の分散を考えるべきではないか。